

縫雲庵

うろこ雲が漂う季節、紅葉を手に取りふと空に透かすと、細胞をつなぐ葉脈がぼつりと漂う雲をつないでいくように美しく青空へ広がっていく。ぼつりと暮らす現代の人々が、再会することを見守るような、茶室空間を提案する。



内部の様子。半透明の境界がモノの輪郭をぼかし、淡い情景を作り出す。



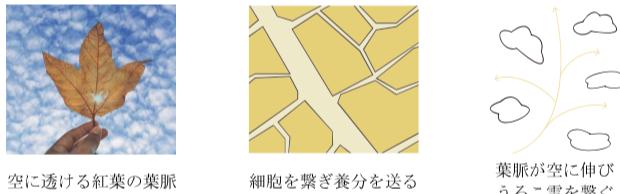
日没後の様子。内部から漏れる明かりは様々な大きさの隙間を通して少しずつ異なる変化を見せる。



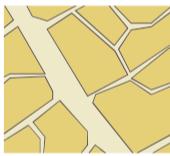
茶室内部から空を見上げる。広大に広がる秋の空を漂ううろこ雲と抜けのある一体となった空間は見る者を包み込む。

コンセプト

秋の空にぼつりと浮かぶうろこ雲を現代人にみたて、人々の出会いを後押しするような空間を提案する。

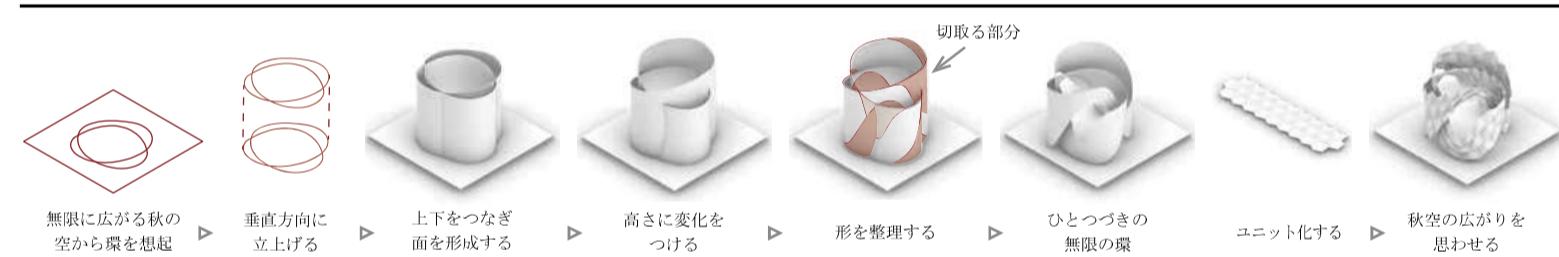


空に透ける紅葉の葉脈



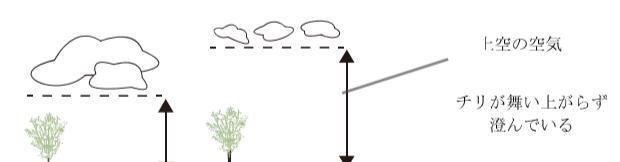
葉脈が空に伸び
うろこ雲を繋ぐ

形の構想



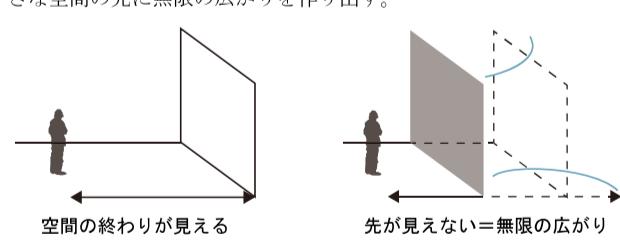
高く見える秋の空

秋の雲は高い位置にできる。日射が少ないことから対流が起きにくく、チリが少ないことも相まって、秋の空は高く広大に感じられる。



半透明が作り出す無限の空間

見えそうで見えない半透明の境界は見る者の想像力を掻き立て、小さな空間の先に無限の広がりを作り出す。

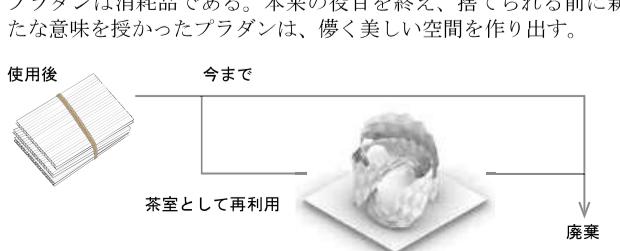


プラダンが情景を抽象化する

茶室を構成する素材としてプラダンを使用する。梱包材や模型材料に用いられるプラダンは情緒的な魅力を秘めている。

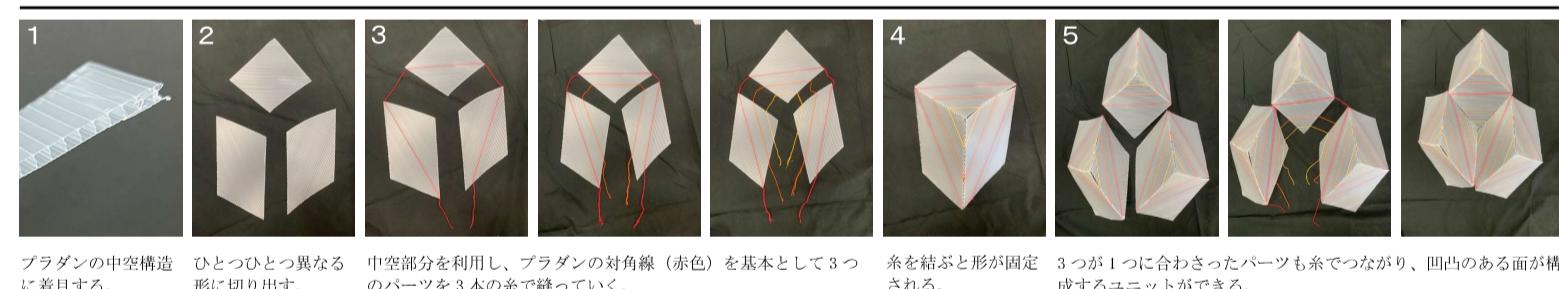


プラダンは消耗品である。本来の役目を終え、捨てられる前に新たな意味を授かったプラダンは、僥幸美しい空間を作り出す。



プラダン 利用の流れ

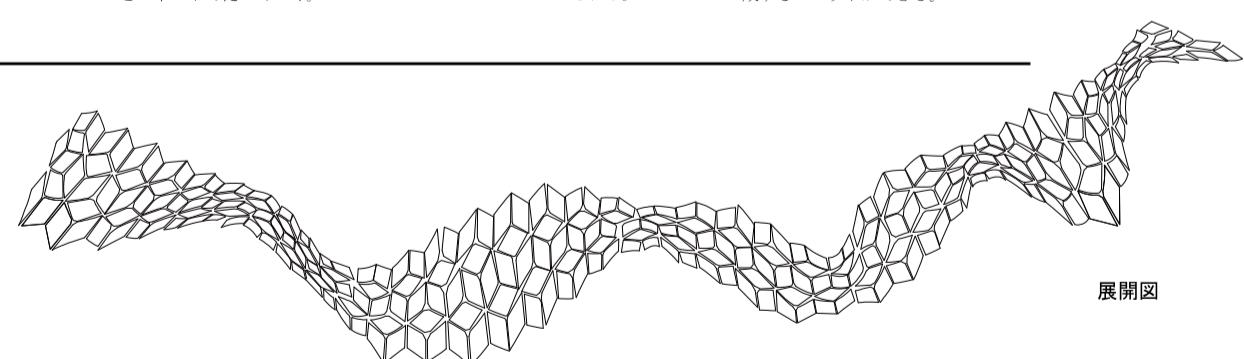
ユニットの構成



全体の構成

色とりどりの葉の葉脈が淡く透けるうろこ雲を繋いでいくように糸とプラダンを使ってユニットを組み上げる。

ユニットの構成と力の流れ
プラダンを糸でつなぎユニットを構成することで、面にかかる負担を最小限にする。

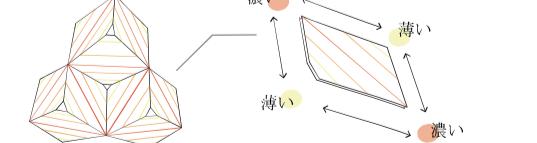


素材の性質を生かした造形



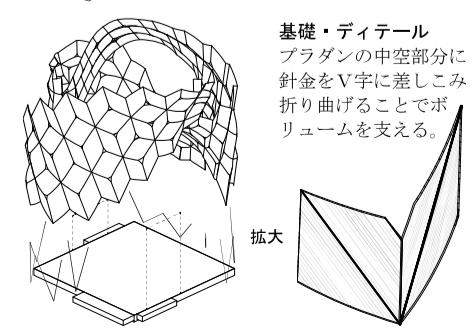
色とりどりの糸

赤／橙／黄に色づく糸は葉脈のようにパートをつなぐとともに、濃淡により空間に立体感をもたらす。



基礎・ディテール

プラダンの中空部分に針金をV字に差しこみ折り曲げることでボリュームを支える。



平面図 1/50

立面図 1/50 にじり口側より

立面図 1/50 茶道口側より

アイソメ図